

Pathology of domestic animals 6th ed, Chapter 1 “Introduction to the diagnostic process”

- Q1. 診断を確定することの究極の成果は、①群飼育動物における感染症の予防と制御に資すること、②新規あるいは新興疾患の存在を識別すること、そして③伴侶動物の場合は（ ）と（ ）の助けになることである。
- Q2. 剖検が飼主に断られた場合に死後の CT や MRI が選択されるかもしれない。下線を英語の一単語で何と呼ぶか？
- Q3. 法医学において、サンプルを入手した際の重要な最初のステップを英語で言うと、establishing a （ ）となる。括弧に入る一語を述べよ。
- Q4. 概して病変が見つかりにくい麻酔中の死亡症例において、剖検の最終目的はしばしば（ ）ことである。
- Q5. **pattern recognition** (パターン認識) の上達のためには、症例の背景情報を得てから／得ずに (どちらかを選べ) 低倍で鏡検し、暫定診断や鑑別診断を付ける訓練をするとよい。
- Q6. 中毒死が疑われる症例で冷凍保存しておくべきサンプルは、大脳、胃内容物、肝臓、腎臓、（ ）、尿、脂肪である。
- Q7. 馬の予期せぬ死亡の原因として比較的多いのは、大動脈破裂、（ ）、運動誘発性肺出血、子宮動脈破裂である。

- A1. grief counseling and case closure グリーフカウンセリングと症例の終結（幕引き）
- A2. virtopsy (virtual autopsy)
- A3. establishing a **chain-of-custody** サンプルを継続して保管すること
- A4. ruling out of underlying disease 基礎疾患を除外する
- A5. 得ずに
- A6. aqueous humor 眼房水
- A7. colic (intestinal strangulation) 疝痛（腸管絞扼）

第1回 ノーバウンダリーズ 月曜ラウンド (2016/04/04)

Volume 1 Chapter1 (p.1~15)

河村

- 問1. 病理検査の目的に関して、適切でない文章が含まれるものを1つ選んで下さい。
- ① 予期せぬ死 (Unexpected death) に対して、まず鑑別診断を行い、形態学的・原因学的診断を行う。
 - ② 生前検査 (Antemortem examination) を行うことで、診断を容易にするだけでなく、予後や治療方針を決める一助となる。
 - ③ 懐古的研究 (Retrospective studies) やサーベイランスプログラムに参加することで社会に貢献する。
 - ④ 組織学的知識を活用して、その他の分野の研究者とは異なる独自の研究を行うことで社会に貢献する。
- 問2. 病理検査の種類とその注意点に関して、次の組み合わせで、適切でない文章が含まれるものを1つ選んで下さい。
- ① 自然発症疾患 (Naturally occurring disease) –
様々な状況に遭遇するため、その動物種で起こりうる最も確率の高い疾患をまず念頭に入れて取り掛かる。
 - ② 法医学 (Forensic, relating to the law) –
その動物の特定や目立った病変を記録するために写真が必要である。
 - ② 麻酔死 (Anesthetic deaths) –
病理診断医は麻酔死がしばしば法医学になり得ることを念頭においていなければならない。
 - ④ 実験的疾患 (Experimental disease, toxicopathology)
GLP (Good Laboratory Practice) に基づいた実験系のもと、スコアリング等を用いてコントロール群との差を調査する。
- 問3. 肉眼検査 (Gross examination) に関して、適切でない文章が含まれるものを1つ選んで下さい。
- ① 体系的 (Systematic) な死後検査手技は不慣れな人にも有効な手段である。
 - ② 肉眼検査では、全ての目立った病変と形態学的診断名 (Morphologic diagnosis) が表記される。
 - ③ 剖検において肉眼診断 (Gross diagnosis) を行うことは病理診断医にとって難しいものの1つではあるが、最も重要なものである。

- ④ 加齢性変化や死後変化などを考慮した上で、適切なサンプルの選択、保管、記録を行う必要がある。

問4. 組織学的検査 (Histological examination) に関して、適切でない文章が含まれるものを1つ選んで下さい。

- ① HE (Hematoxylin and eosin) 染色は最も基本となる染色であるため、病理診断医は染色原理を理解する必要がある。
- ② HE 染色でも偏光顕微鏡下で所見を取ることができる。
- ③ 病理診断医は特殊染色 (special stain) の特性を把握しておかなければならない。
- ④ 免疫組織化学 (Immunohistochemistry) は腫瘍の分類などには有効であるが、感染症や中枢神経系の病変には不向きである。

問5. その他の追加 (Additional) に関して、適切でない文章が含まれるものを1つ選んで下さい。

- ① 微生物検査 (Microbiology test) を行うに当たり、病理診断医は微生物学者とよく話し合い、疑われる疾患に対して適切なサンプルを提供しなければならない。
- ② 多くの臨床寄生虫検査 (Clinical parasitology test) は死後検査にも有効であるが、原虫性疾患における種の同定には分子生物学的検索が必要になる場合もある。
- ③ 分子生物学的技術 (Molecular biology technology) は感染性疾患の原因の同定に有効であり、検出された微生物の核酸は疾病診断と一致する。
- ④ 細胞診 (Cytopathology) は細胞質や核の詳細な情報を得ることができるが、組織構築やパターンを認識することは困難である。

問6. 症例の判断、病理サービスの質、今後の病理診断医の能力に関して、適切でない文章が含まれるものを1つ選んで下さい。

- ① 死後検査や外科病理の最終点は臨床的な問題や際立った病変を説明する診断であり、単なる所見の羅列ではない。
- ② 伴侶動物、生産動物に関わらず、病理診断にかかる費用は制限を設けることなく、出来る限りの試験を行うべきである。
- ③ 病理診断医は健康や安全、バイオセーフティーに十分な注意を払うべきである。
- ④ 教育の継続や記録の作成は非常に重要であり、これらのことが研究室の質を向上させる。

回答

問 1. ④、問 2. ①、問 3. ①、問 4. ④、問 5. ③、問 6. ②